



徳之島事務所農業普及課だより



◎発行元：鹿児島県大島支庁徳之島事務所 農業普及課

◎住所：徳之島町亀津 7216 ◎TEL：0997-82-0323

きゅうがめらアグリ情報

令和7年度新規就農者励ましの会



6月20日に天城町にて、徳之島3町の担い手育成総合支援協議会と徳之島農業改良普及事業協議会の共催により、新規就農者励ましの会を開催し、新規就農者5人のうち、4人が出席しました。

今年度の対象者は、天城町4人、伊仙町1人で、それぞれピタヤ、とうもろこし、さつまいも、さとうきび、しょうが、トルコギキョウ等の生産に取り組んでいます。

会では、天城町長、大島支庁徳之島事務所長より新規就農者に対して励ましのことが贈られた後、新規就農者から1人ずつ、収入の安定化や農産物加工への意欲など、営農に向けた抱負が述べられました。また、町別の支援策説明会や情報交換会を実施し、先輩農業者や関係機関との人脈づくりの場となりました。

農業普及課では、「農業基礎講座」や「個別巡回訪問活動」等を通じて、早期の営農確立に向けた支援を行っています。



町別説明会の様子

害虫「セグロウリミバエ」について

セグロウリミバエは、主にうり科、なす科植物の果実に甚大な被害を与える重要害虫です。ミカンコミバエと同様に、梅雨前線や台風等の強風により、東アジア等から国内に飛来すると考えられています。

成虫の体長は6.7～9.0mmであり、にがうり、かぼちゃ、すいか、きゅうり、赤うり、とうがんなどのうり科植物やトマト、ピーマン、とうがらしなどのなす科植物、パッションフルーツ、パパイヤ、グアバ(ばんじろう)、ピタヤ(ドラゴンフルーツ)など、いろいろな種類の果実を加害し、果実を腐らせます。

そのため、セグロウリミバエが発見された場合は、寄主果実の除去や薬剤散布、栽培残渣の早期片付けなどのまん延防止対策にご協力をお願いします。

ご不明な点などがあれば、各町農政担当課や大島支庁徳之島事務所農業普及課へご連絡ください。



セグロウリミバエ成虫
(植物防疫所HPより引用)

ピタヤの産地化に向けて活動展開中

徳之島では、気象や土壌条件に適する美味しいピタヤ(ドラゴンフルーツ)の系統を選抜し、着果性に優れる赤肉種の生産拡大に取り組み、商品名「徳之島宝赤(とくのしまほうせき)」で販売しています。

国内で販売されているピタヤのほとんどは、熟する前に収穫された輸入果実ですが、国内産ピタヤは熟した後に収穫されており、輸入果実に比べて甘みが強いことから、国内産ピタヤに対する評価が高まっており、流通量が増えています。

しかし、新規品目であるピタヤは整枝・せん定や施肥、病虫害対策など栽培方法が確立されていないため、栽培講習会や施肥に係る技術実証、他産地事例調査を行い、品質向上及び生産安定につながる栽培方法を検討しています。徳之島では栽培者が増えており、今年度は4月に新規栽培者向けの栽培講習会を、7月には沖縄県にて他産地事例調査を実施し、ピタヤの産地化に向けた活動を展開しています。

2年前に新規に苗を植えたほ場では、今年から本格的な出荷が始まっており、ピタヤの産地化に期待が高まります。



新規栽培者向けの栽培講習会



沖縄県での他産地事例調査

新品種「しまあかり」の普及に向け一歩前進

徳之島産ばれいしょの主要種場産地である北海道では、ジャガイモシストセンチュウ（以下、Gr）の発生地域が拡大しています。

主力品種である「ニシユタカ」はGr抵抗性を持たず、将来的に種いもの確保が困難になる恐れがあります。このため、抵抗性品種への転換は喫緊の課題であり、これまで複数のGr抵抗性品種の栽培実証を行ってきました。その結果、本県育成品種「しまあかり」が有望と考えられています。

「しまあかり」は、「ニシユタカ」と比較して出芽がやや遅いものの、同等の収量性が期待できるうえ、そうか病や粉状そうか病にやや強く、外観がきれいで食味が良好といった特徴があります。



Gr被害を受けた圃場

https://katoseijsbba.or.jp/view_html.php?aid=316

令和6年度産では、16人の生産者による「しまあかり」の試験栽培が、11月下旬から12月上旬の植付けで行われました。その結果、いも個数は「ニシユタカ」よりやや多く（データ略）、一個重はやや軽かったものの、同等の収量が得られることが明らかとなりました（図1）。

栽培終了後の6月30日には、試験栽培者及び関係機関で実績検討を行い、「しまあかり」に対する理解を深めました。

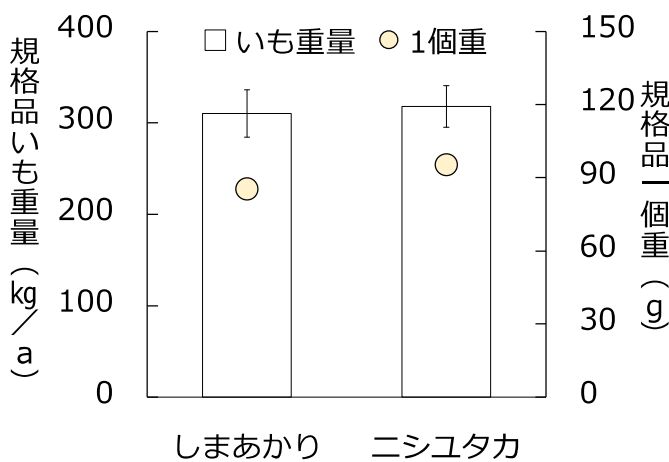


図1 規格品いも重量及び規格品一個重

注1) 数値は15人の平均値

注2) エラーバーは標準誤差 (SE)



R6産「しまあかり」実績検討会

ジャガイモシストセンチュウに関して、部会の総会や栽培講習会などの機会に、幅広く啓発活動を実施してきました。また、理解をさらに深めてもらうため、7月25日にはJA天城事業本部園芸部会瀬滝支部にて開催された勉強会において情報提供を行いました。参加した農業者は14人でしたが、少人数のため意見交換を行いやすく、参加者の理解は確実に深まりました。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、ジャガイモシストセンチュウ並びに「ニシユタカ」から「しまあかり」への品種転換の重要性について、全生産者への啓発・理解促進に努めていきます。

県青年農業士の紹介



令和7年2月7日に鹿児島市にて県青年農業士の認定式があり、伊仙町の田畑奈々氏が認定されました。

田畑氏は平成30年に帰郷し、大規模生産牛法人での研修を経て、親元で就農しました。現在、自ら人工授精に取り組み、繁殖成績の向上を目指して日々奮闘中です。

また、農業青年クラブに所属しており、地域を牽引する将来の担い手として活躍が期待されます。

令和7年度県農村女性リーダーネットワーク先進地研修が徳之島で開催されました！

7月10日～11日に徳之島にて、令和7年度県農村女性リーダーネットワーク先進地研修が開催され、県内の女性農業経営士63人（うち、徳之島16人）が参加しました。研修では、徳之島地区の女性農業経営士組織（参画21 とくのしま）の会員が島内を案内し、会員が生産するお茶、生産牛のほか、ピタヤのほ場などを視察しました。

知事の出席もあった交流会では各地域の活動紹介が行われたほか、組織運営のあり方や海外研修への要望が出されました。参加者からは「研修を通して女性農業経営士としての活動意欲が向上した」との声が挙げられました。

